

編集デスク

西独フランクフルトで開かれた国際書籍見本市に赴く機会があったので、はからずも 6 年前の訪欧の時とくらべてドイツの復興ぶりを比較してみる結果になった。

フランクフルトの 6 年前は、まだ戦災による被爆のあとがなまなましく残っている部分があったが、そのような面影はもう消去されていた。逞しく復興し、この商工業の中心であり、両独の交通の要衝であり、そして見本市の開かれる街は、いきいきとして生気にあふれていた。

ちょうどベルリン問題が緊迫していた時であるから、そのような空気を反映もしていた。そしてフランクフルトにいた 1 週間の間に、例のソ連の 50 メガトン超水爆の実験があって、ドイツの新聞にもトップ記事

で大きく報道された頃であった。私は北廻りのジェット機でアラスカのアンカレッジからコペンハーゲン経由でフランクフルトに赴いたのだが、まず出発に際しアラスカは防空演習だというわけで、日本がいちばんのんびりしているような印象を受けた。

(フランクフルト 6 年

の 消 長)

—— 長谷川 泉 ——

6 年前のフランクフルトでは、戦争で父母を失ったという青年から酒手をたかられたりした印象があざやかだが、今ではドイツ経済は力強く西欧の中心になってのびており、6 年前の頃の印象とは格段に違った自主的な発展の力強さを胸に刻み込まれた。一国の消長は政治や外交が



フランクフルト駅

関連し、世界史の動きのなかで決められてゆくものであるが、何といっても、自力のあるものと無いものとは、だんだんその間隔ははっきり露呈されてくる。ドイツは現在難局に立っているとはいっても、国力は充実し、気魄にあふれ、街行く人たちの顔に自信に満ちた希望が見られた。6 年前のフランクフルトの印象と、現在のフランクフルトの印象の二重焼きのなかから、私は日本の現在おかれている位置を痛切に反省させられたのである。

痛みが走る……流れるという症状を古代ギリシャではリウマチと呼びました。たしかにリウマチの痛みは、あちこち痛みが走り回るのが特長です。これからは、寒さや冷えなどからふしぶしに炎症を起こしやすく、痛みも強くなる季節です。
エレストールは、このようなリウマチや神経痛の、つらい痛みを早くおさえるばかりでなく、ハレも同時にとりのぞく強い効きめをもっています。

痛みが
走る……

ドイツ・バイエル社 技術提携品

エレストール®

12錠 350円・30錠 800円・150錠 3,300円

製造・吉富製薬 販売・武田薬品